２　詳細調査の成果

水源地である布引滝から隧道出口までの調査を踏まえ、地点ごとの特徴を記述します。

（１） 水源地から水門付近

阿多野用水は、布引滝と豆腐沢を水源としています（写真 3-9・10）。水源から取水された水は大御神堤でせき止められ、阿多野用水池に溜まり（写真 3-12・13）、その後コンクリート製の集水桝に流されます。集水桝の水門でせき止められた水は棚頭の地下に掘られた隧道内に導かれます（写真 3-14）。

写真 3-9　水源地（最奥部）

写真 3-10　水源地（布引滝）

写真 3-11　阿多野用水池の取水口

写真 3-12　阿多野用水池（大御神堤）

写真 3-13　阿多野用水池（大御神堤）

写真 3-14　集水桝と水門

（２）水門付近から200m付近

現在、コンクリート製の管理坑から隧道に入ることができます（写真 3-15・16）。

隧道入口付近は、横穴が２箇所あります（写真 3-17）。どちらも拳大の礫が充填され、天井部まで詰まっています。60m付近までは、天井が 1.0m程度と低く、人が立って歩くことが困難です。窪みは、床面から 0.5m程度の高さに掘られています。また、床面には細かな火山砕屑物が堆積しています。

60m付近は、右壁[1]の下部が拡がり、隧道の断面形状が楕円形ではなくなります（写真 3-18）。流水による洗掘か、意図的な掘削かは不明です。天井は 70m付近から次第に高くなります。

140m付近からは隧道の進行方向が南東に変わり、180m付近では東に変わります。200m付近は再び進行方向が南に変わります。170m付近と、200m付近は、天井から漏水があり、200m付近は天井部が剥落しています（写真 3-20）。

写真 3-15　水門付近の管理坑

写真 3-16　管理坑とコンクリート水路

写真 3-17　0m付近

写真 3-18　120m付近

[1] 上流から下流に向かって、右側の壁を「右壁」、左側の壁を「左壁」と表記します。「上流」は水門側を指し、「下流」は隧道出口側を指します。